



2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2021/9/30

団体名	NPO法人 あめんど		活動タイトル	フリースクールまやっかによる自立支援				
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）				■活動風景				
●望ましい社会状況（ビジョン）	当法人の実現したいビジョンは「すべての子ども達が将来に夢と希望をもって、安心と自信の基盤の上に生きていける社会」である。具体的には子ども達それぞれが持っている発達特性や、生育環境、社会関係のために、学校生活を始めとする様々な社会生活場面において疎外されてしまうことのない社会を作ることである。本来様々な可能性を持った子ども達が、画一的な社会規範や教育の価値観の中で行き場所を失うことなく、安心して自分の個性を生かすことのできる環境を作りたい。そして、子ども達がその持てる力を発揮して、人や社会の役に立つ喜びを持って生きていくことができる社会の形成をめざす。			学習風景	<p>小集団で同じ課題に取り組み協力することで、学習意欲が上がる。</p> 			
●団体の社会的役割（ミッション）	当団体の社会的役割（ミッション）は「親が安心し、子も安心して育つ環境を作ることである。」具体的には、以下のような取り組みを行う。1. 子どもの状態やその将来について正しい知識や相応しい対応を保護者と一緒に考えることで、不登校・ひきこもりの児童の保護者を支援する。2. 不登校やひきこもりの子ども達への学習及び生活を支援する個別のプログラムを用意した居場所、学習環境を提供する。3. 自分の事を理解し、共感してくれる人との活動や学びを通して、「皆と同じでないのだめだ」という画一的な価値観に囚われることなく、自分が本来持っている力を引き出せるようサポートする。							
●団体の活動基盤	・人材資源/経験豊富で子ども達に寄り添うセンスを持った相談員と、子ども達に年齢も近く今後の活動を担える若手支援員が揃う。広報や会計、事務担当の専属スタッフが確保できる。・物質資源/個別の学習環境を確保できる十分なスペースと用具、様々な段階にある子ども達に合わせた教材や遊具、子ども達のアセスメントの検査セット、支援技術向上の為の研修用具や学習の書籍、資料等を揃える。・活動資金/子ども達の支援に欠かすことが出来ない、彼らを支える「人」。人件費の確保が必要である。若者の就労支援のための作業で製造している商品から収益を上げて、活動資金を得る。・情報/子ども達を支える為に、学校や各機関との連携のため適切に情報のやり取りができる。新しい制度や法律、知識、支援のノウハウに関わる情報が速やかに伝わり共有関係にある。							
■活動報告			■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)					
<p>・不登校・ひきこもりの子ども達への学習及び生活支援…187日、延べ431人の参加。個別学習、運動、ボードゲーム（コミュニケーション支援）、調理実習（生活支援）等の活動。初期段階では個別対応が必要だが、徐々に小集団活動が可能になった。家から出て活動することで体力も向上した。</p> <p>・子育てサロン…日頃子どもの関係や周囲からのプレッシャーで疲れている母親（祖母）がお茶を飲みながら子育てについて学び、子どもと安心して向き合える力を得た。個別相談にも応じ、親子の関係改善や学校や各機関との関わりの円滑化に努めた。</p> <p>・子どもの在籍校及び関係機関との連携事業…小集団の中でこそ見られる子どもの様子や変化を伝えたり、ケース会議にも参加した。また、公的機関による子どもの安否確認の場に使われることもあった。地域の会議等に参加しながら提言を行い行政、民間で子どもを支えていく仕組みを考えていった。</p> <p>・若手スタッフの育成…インターン4名。個々の背景や学びの必要性も違ったが、社会課題について考える学習会や活動後に振返りの時間をもち気付きの共有を行った。</p>			<p>・不登校・ひきこもりの子ども達への学習及び生活支援…それぞれに合わせた無理のない学習・生活プログラムを組むことで、子ども達は安心して通所できた。徐々に笑顔や会話量、来所の回数や時間が増えた。学習へ苦手意識の高い子どもが多く、取り組むまでに時間がかかったが、少しずつ自分の状態にあった学習を進めることが出来るようになった。</p> <p>・子育てサロン…保護者の安心確保のための場所と時間を提供できた。また気軽に相談できる関係を築けた。情報があふれて混乱していた保護者に、情報を整理し相応しい対応を共に考えることで、それぞれが正しく行動に移せるようになった。</p> <p>・在籍校や関係機関及び関係機関との連携事業…在籍校へ子どもの活動の報告書を提出することで、活動参加が学校の出席扱いとなった。本施設でしか安否確認できない子どものために行政や在籍校の職員が来られ、唯一の子どもや保護者との接点の場としてなっている。</p> <p>・若手スタッフの育成…滋賀大学（教育学科）4回生のインターンは就職先に児童福祉施設を選び、今後も子ども支援に携わる。また、課題についての知識を持たなかった学生は子どもや保護者の現状や社会課題について学び、他学生へのプレゼンを行った。</p>			野外活動	<p>野外で体を動かした。キャッチボール、バドミントン、凧揚げ、散歩など、少人数でできる運動。</p> 	
■事業を通じて得られたノウハウ			■望ましい社会状況を達成するための課題					
<p>・個々の習熟度に合わせて丁寧に学習を進めていくと共に、タイミングを見ながら小集団での学習活動や体験活動を増やすことは子どもの成長にとって効果を発揮する。皆で協力して問題を解いていくことで、例えばRPGゲームのようなイメージでパーティーを編成し、課題に立ち向かうなど、互いの得意な部分を生かし協力しながら先に進んでいく、学習に取り組むことで、社会解決能力を集団で高めていくことができる。</p> <p>・「学校は怖い」「自分は何もできない」と多くの子ども達の不安は漠然としている。発達検査を受けること等を通じて自分の力を客観視出来ることは有益である。正しい自己認知が育ち、自己肯定感や積極性が出てくる。また、新年度や新学期になると「学校に行ける気がする」という期待やリセットの思考にもこの客観性は有効である。</p> <p>・学習面で能力の定着が難しい子どもも社会生活面で力を持っていることがある。保護者と共に考え働きかけの優先順位を考えて接する。</p>			<p>・互いに認め合い、助け合える社会づくりが大切である。教育とは自立して、他に求めることなく、社会的枠割を担う人物を育てることである。日本人は社会性よりも集団性を重んじる傾向にあるが、自分をはっきり認知し、誰と共に生きるかについて選択し、自分の社会を作り上げていくための教育が必要である。そういう意味では学校教育は集団的思考からさら前進する必要があると考える。</p> <p>・学校に行かない事よりも、自宅で何もしない事の方が問題である。自宅のネット環境は怠情を増長し、読み書きの機会と能力を著しく減少させる。不登校の理由が学校環境にあるのなら、フリースクールの活用、またはホームスクーリングの方法がある。欧米のホームスクールは協会に登録すれば教育サービスを利用できる。合同イベントや卒業式もある。協会は児童の現状を把握しやすい。学校現場ではオンライン授業を効果的に行っていない。不登校支援にホームスクーリングのノウハウを取り入れてはどうか。</p>			この1年間の活動を通じて	全ての子ども達の不活発な状態を、活動的で豊かな一日が送れる生活を達成しました。	を達成しました。
■受益者の具体的な変化（自由記入）								
<p>・家から外に居場所を見つけ、会話が増え、活動に参加し、表情に変化が見られる。個人の程度差はあるが、学校の授業や行事に参加可能になった。</p> <p>・子どもの心配と不安を持つ保護者が、正しい情報を得て、整理し、安心して子どもに接し方がより良く変化した。</p>								